

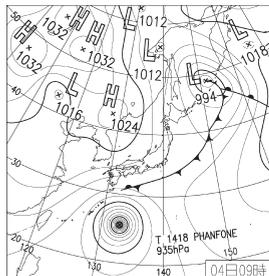
日々の天気図

— No. 153

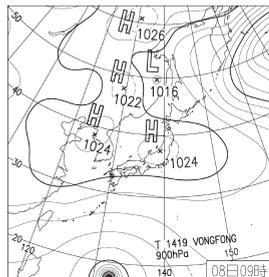
2014年10月

・台風第18号と19号、相次いで上陸。18号は大東島地方や西日本太平洋側に接近後、6日に静岡県に上陸。19号は沖縄・奄美に接近後、13日に鹿児島県に上陸、14日にかけて本州を縦断し、全国的に大雨。
・27日、近畿地方と東京地方で木枯らし1号。

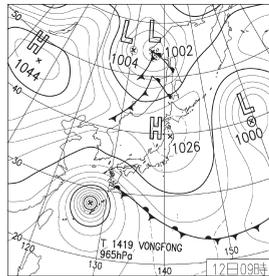
(気象庁予報部予報課)



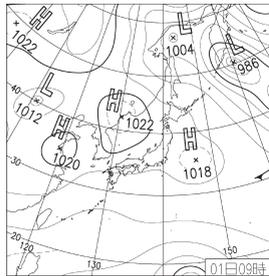
4日(土)台風 大東島地方に接近
台風第18号や寒気流入の影響により全国的に曇りや雨。沖縄・奄美は雨や風が強まり、沖縄県南大東村在所で58 mm/1hの非常に激しい雨、北大東空港で最大瞬間風速45.3 m/s。



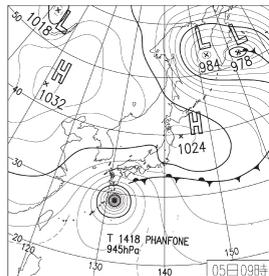
8日(水)晴れて皆既月食観望
西～東日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。北日本は低気圧の影響により一部で雨。朝に下層雲が広がった関東の一部を除き、全国的に最低気温が平年より低い。各地で皆既月食観望。



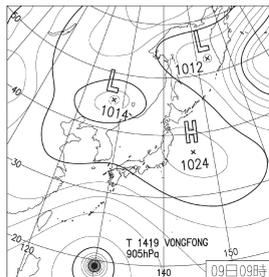
12日(日)台風 沖縄通過
台風第19号は0時半頃沖縄本島付近を通過。沖縄・奄美、九州は大荒れ。中国・四国～東海も夜には雨。北陸や北日本は晴れ。宮崎県美郷町門前で日降水量276 mm。



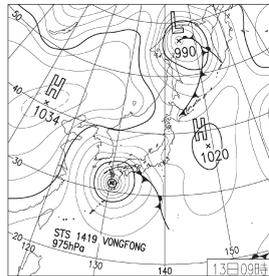
1日(水)北日本冷え込む
沖縄・奄美は気圧の谷となり所々で雨。西～東日本は湿った気流の影響で雨の降った所が多い。北日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。放射冷却により最低気温が11月上旬並の所も。



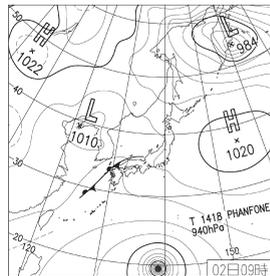
5日(日)台風は四国沖へ
台風第18号は九州南部に接近し、鹿児島県屋久島町小瀬田で最大瞬間風速43.7 m/s。台風や前線の近傍で大雨。東京都三宅島坪田で64.5 mm/1h、鹿児島県中種子で日降水量336.5 mm。



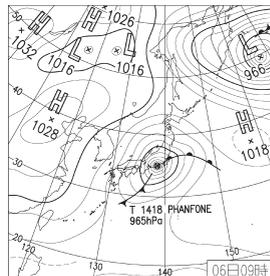
9日(木)太平洋側で雨
高気圧に覆われて西～東日本の日本海側と北日本は晴れたが、太平洋側は台風第19号の東を回って流入する湿った空気の影響で曇りや雨。北海道は、夜に低気圧接近による雨。



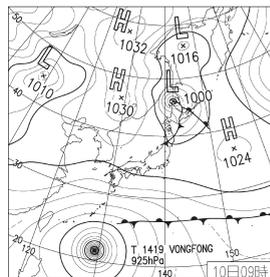
13日(月)台風 日本列島を縦断
台風第19号は鹿児島県枕崎市付近に上陸し、日本列島上を北東進。兵庫県洲本で83 mm/1hの雨、高知県仁淀川町鳥形山で日降水量399.5 mm、岡山県奈義で最大瞬間風速39.7 m/s。



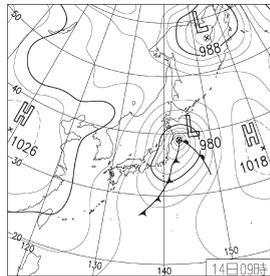
2日(木)西から雨
前線の影響で九州、中国から雨が降り出し、北陸、東北にかけて次第に雨。東海や関東甲信も所々で雨。石川県輪島市門前で日降水量124 mm、10月の1位を更新。



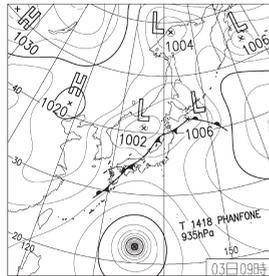
6日(月)台風 静岡県に上陸
台風第18号は静岡県浜松市付近に上陸後、関東を通過して三陸沖へ。静岡市鍵穴で87 mm/1hの猛烈な雨、静岡県御前崎で最大瞬間風速45.5 m/sなど、東日本の南岸を中心に大荒れ。



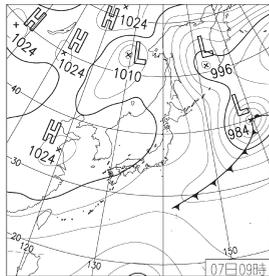
10日(金)小笠原で大雨
台風第19号の北上に伴い前線活動が活発となり小笠原諸島で大雨。父島の日降水量111.5 mm。東北日本海側や北海道は低気圧や前線の通過で雷雨。羅臼で最大瞬間風速36.8 m/s。



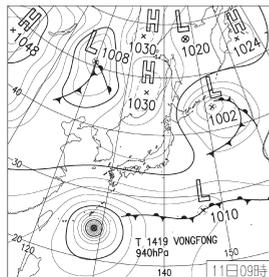
14日(火)台風 温帯低気圧に
台風第19号は三陸沖で温帯低気圧に。寒気の流入により日本海側は曇りや雨。福島県新地で75.5 mm/1hの非常に激しい雨。北海道えりも岬で最大瞬間風速36.1 m/s。



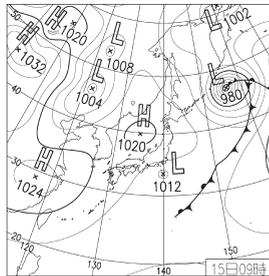
3日(金)関東甲信で真夏日
北海道付近の低気圧と本州上の前線付近で雨。晴れてやや強い南風が吹いた関東甲信を中心に気温上昇。山梨県大月で最高気温32°Cなど、広く真夏日。岩手県で震度4。



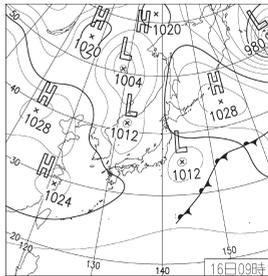
7日(火)ひまわり8号打ち上げ
寒気が入り、朝まで東日本や東北でしくれたが、その後は日本海の高気圧に覆われて全国的に晴れ。富山県の立山や岩手県の岩手山で初冠雪。帯広で初霜、初氷、旭川も初霜。



11日(土)大型で非常に強い台風
沖縄・奄美は台風第19号が接近して大荒れ。沖縄県南城市糸数で最大瞬間風速49.7 m/sの他、同頭村比地で63.5 mm/1h、日降水量512.5 mmなど大雨も、岩手県、青森県で震度4。

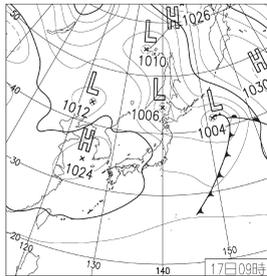


15日(水)東日本で雨域拡大
西日本は概ね晴れ。伊豆諸島の低気圧に伴う雨域が東海～関東甲信で拡大。北日本は冬型の気圧配置が緩み広く晴れ。函館で初霜、離阿寒岳で初冠雪。沖縄県と宮城県で震度4。



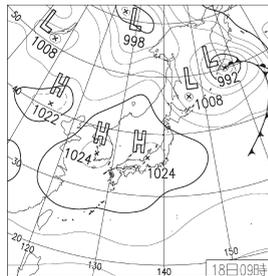
16日(木)北陸、東北で雷雨

沖縄・奄美～西日本と東日本太平洋側は高気圧の圏内で概ね晴れ。その他の地域は曇が多く、北陸、東北は低気圧の影響で夜に雷雨、新潟でひょう。富士山で初冠雪。旭川で初氷。



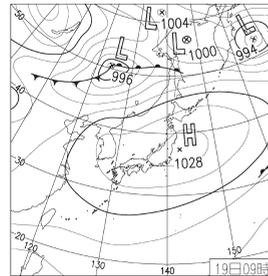
17日(金)北日本でぐずつく

黄海の高気圧に覆われ、沖縄・奄美、西～東日本は概ね晴れたが、北陸は寒気の影響で午前中雨。北日本は上空に寒気を伴った低気圧の影響で、所々で強い雨。秋田でひょう。



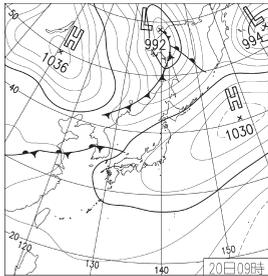
18日(土)東日本中心に冷え込む

全国的に概ね晴れたが東日本海側は雨や曇り。山形県酒田市浜中で57 mm/1hの非常に激しい雨。最低気温は中国～関東で平年より低く11月中～下旬並。石川県白山で初冠雪。



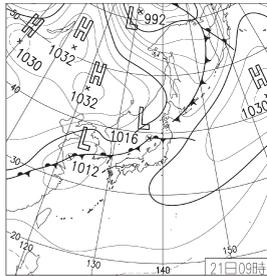
19日(日)札幌で初霜、初氷

高気圧に覆われ広く晴れ。沖縄では真夏日の所も。放射冷却により最低気温は全国的に平年より低く、北海道内陸部などで氷点下。札幌、釧路、網走で初霜。札幌では初氷も。



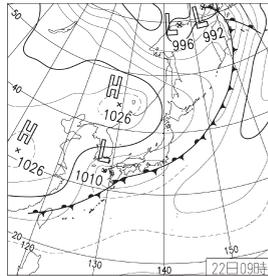
20日(月)四国、中国以北で雨

高気圧の勢力が残る沖縄～九州は晴れ。上空の気圧の谷の影響で西日本の雨域が東～北日本にも拡大。南海上からの湿りが入った徳島県阿南市蒲生田で41.5 mm/1hの激しい雨。



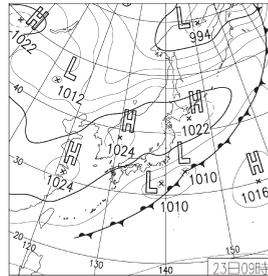
21日(火)暖かな朝

沖縄は高気圧が張り出し晴れ。その他の地方は低気圧や前線の影響で雨。暖気が吹き込んだため、西日本は最高・最低気温共に、北日本は最低気温が、9月中～下旬並の所が多い。



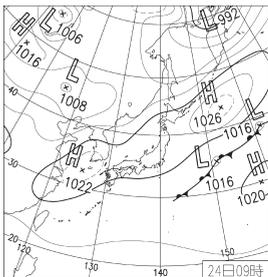
22日(水)沖縄～東北で雨

前線が日本付近に停滞し北海道を除き全般に雨や曇り。北海道は高気圧の圏内で晴れ。最高気温は北ほど平年より低く、北日本は11月並。網走で初氷。奄美で震度4。



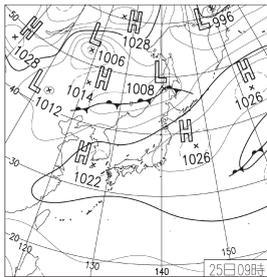
23日(木)北日本で初霜、初氷

東日本で雨や曇り。他は概ね晴れ。最低気温は北日本を中心に平年より低く北海道弟子屈町川湯で-7.2℃、11月下旬並。盛岡、青森、室蘭で初霜。盛岡、青森、函館、釧路で初氷。



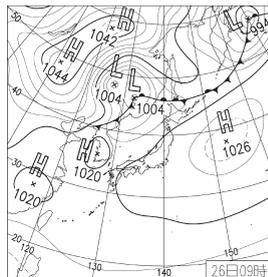
24日(金)気温の変動幅大

高気圧に覆われ全国的に晴れ。放射冷却と日中の気温上昇により、北海道新冠町新和で最低気温-3.9℃、最高気温17.4℃で変動幅21.3℃等、北海道の6地点で変動幅が20℃以上。



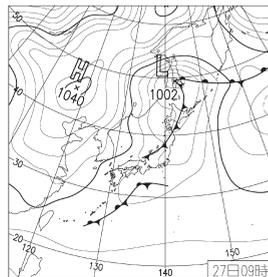
25日(土)帯状高気圧

本州付近は東西に連なる帯状高気圧に覆われ晴れ続く。気圧の谷となる沖縄・奄美は所々で雨。北海道は低気圧や前線により南西風が強まり稚江市宗谷岬で最大瞬間風速22.7 m/s。



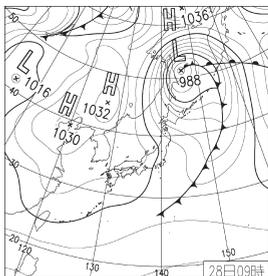
26日(日)北海道で高温

高気圧の圏内で全国的に概ね晴れたが、沖縄～東日本太平洋側は、南からの暖かく湿った気流により所々で雨。高知県田野で60.5 mm/1h。北海道は最高・最低気温が真夏並の所も。



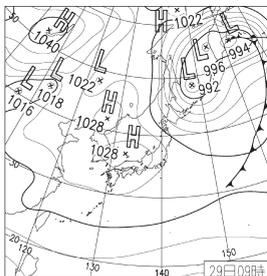
27日(月)近畿・東京木枯らし1号

寒冷前線が通過し寒気流入。山陰～北陸、北日本を中心に曇りや雨。近畿地方で昨年より8日早く、東京地方でも15日早い木枯らし1号。栃木県那須大島で最大瞬間風速27.3 m/s。



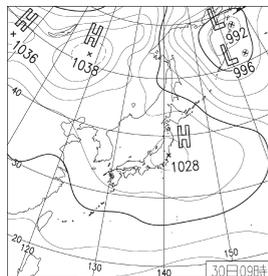
28日(火)北海道で初雪

北陸～北日本日本海側は雨や雪。青森県酸ヶ湯で23 cmの降雪。函館、札幌、旭川、稚内で初雪。長野県から北海道の7山で初冠雪。北海道よりも岬で最大瞬間風速28.3 m/s。



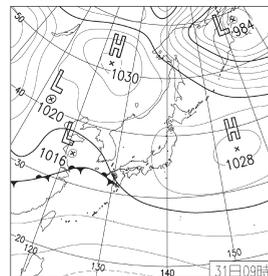
29日(水)西～東日本 冷え込む

高気圧に覆われて冬型の気圧配置は次第に弱まる。晴れた西～東日本は最低気温は11月中～12月上旬並と低く、長野で今季東日本初の初霜。宮城・蔵王山等東北の山々で初冠雪。



30日(木)全国的に晴れ

高気圧に覆われ全国的に晴れ。九州は気圧の谷接近で夜は雨。最高気温は全国的に平年より高く、最低気温は九州や四国を除き平年より低い。盛岡、青森、札幌市でイチョウ黄葉。



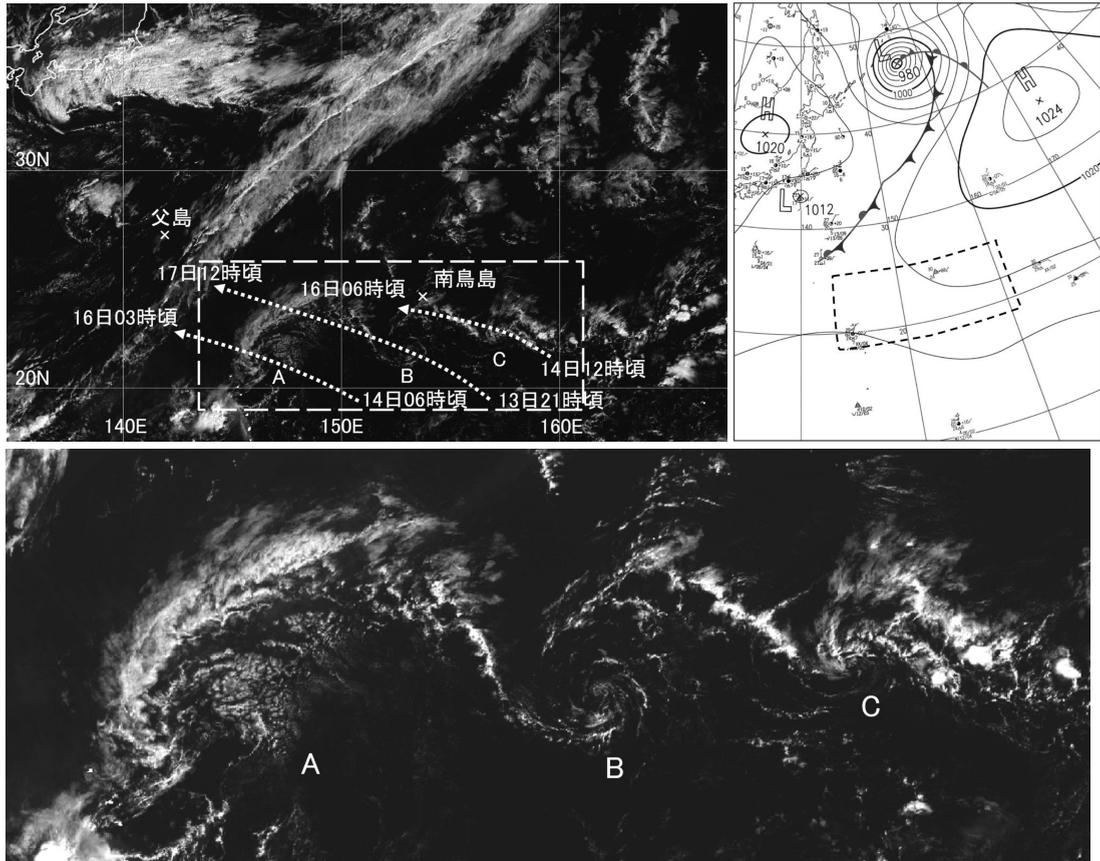
31日(金)台風発生

沖縄～東日本は湿った気流や前線の影響により雨。北日本は高気圧の圏内で晴れた所が多く、東北では最高気温が9月下旬並の所も。台風第20号がフィリピンの東で発生。



今月のひまわり画像—2014年10月

亜熱帯域で連なった3つの雲渦



第1図 2014年10月15日09時（日本時間）の可視画像（下図は上図の破線域内の拡大図）と同時刻の地上天気図（破線域内は左図のそれと同領域）。図中の点線、日時及び記号については本文参照。

第1図は2014年10月15日09時（日本時間）の小笠原諸島及び南鳥島付近における可視画像である。南鳥島の南に3つの低気圧性回転を持った雲渦（図中の記号A, B, C）が確認できる。同時刻の地上天気図（第1図右上）では、一連の雲渦は空間的スケールが小さいため表現されていないが、高気圧の縁辺に位置し、西北西に動いていた。これら3つの雲渦の発生から消滅までの経路（破線）及びその日時を第1図（左上）に示した。各雲渦が発生した北緯20度付近には、13日15時まで停滞前線（「本号「日々の天気図」参照）があり、前線の南側では活発な積乱雲が発生していたが、その後急速に衰弱した。3つの雲渦の推移を見る

と、まず雲渦Bが13日21時頃に不明瞭化した前線の北側に発生し、翌日（14日）雲渦A, Cも発生した。それぞれの雲渦は中心付近に時々積乱雲を発生させながら、西北西へ進んだ。雲渦AとBは父島の南の帯状の雲域の中へ入ると、すぐに不明瞭化した。雲渦Cは規模が小さかったためか最も寿命が短く、南鳥島の南西で消滅した。

これらの雲渦は、海面水温が28℃以上の海域で発生したが、終始下層雲が主体であった。このような雲渦直下ではどのような風の変化があったのか興味深いところであるが、付近を通過した船舶からの気象観測報告はなかった。（気象庁予報部予報課 原 基）